



JSQC ニュース

No.302

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 統計・データの質マネジメント研究会発足
- 2-私の提言 「JSQCの今後の国際化」
- 2-ルポルタージュ 第108回中部支部講演会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第343回事業所見学会ルポ/第350回中部事業所見学会ルポ
- 4-5月の入会者紹介/行事案内/教員公募

統計・データの質マネジメント研究会発足

統計・データの質マネジメント研究会 主査・統計数理研究所 椿 広計

JSQCは、内閣府統計委員会からの要請に応え、「統計・データの質マネジメント研究会を3年間設置することを3月理事会で決定しました。去る7月13日に第1回の研究会を開いたところです。統計委員会は、国勢調査などわが国の公的統計の整備計画などについての司令塔機能を果たす委員会ですが、「公的統計の整備に関する基本的な計画」(平成21年3月閣議決定)に盛り込まれた統計の見直し・効率化を効果的に進めるために、関連学会に協力を呼び掛けたのです。

基本計画の中で、統計の品質評価研究は、品質の設計、改善、評価研究に実績を有するJSQCへの依頼となったわけです。その際、統計委員会からは、JSQCが日本統計学会や各府省の専門家との連携も留意して欲しいとの意向も表明されました。このため、当研究会開始に当たって、近年統計教育分野でも連携を強めている日本統計学会の美添泰人会長(青山学院大学)や総務省、厚生労働省などにもJSQCに入会を呼びかけ、研究会に参画いただいたところです。

筆者は、これまで応用統計家として品質管理分野に携わってきましたが、実は2つのやりたい活動がありました。一つは、自分の職業が教育・研究者であることから、教育研究分野の品質マネジメントを実践したいということ

で、これは経営専門職大学院の教育研究質保証活動である程度実現しました。もう一つが、やはり自分が統計家であるという事に関わっていて、データや情報の質マネジメント、更にはそれら収集情報に基づく意思決定の質マネジメントといった活動への貢献です。従って、この研究会開始に当たっても、単に公的統計の質改善だけでなく、広く職業としてデータ収集に当たっている分野の専門家に参加を呼びかけようと考えました。そこで、(社)日本マーケティングリサーチ協会、日本製薬工業協会医薬品評価委員会生物統計・データマネジメント部会、臨床試験のデータマネジメント受託会社であるEPS-Japanの厳浩社長(JSQC会員)にも参画を呼び掛けました。

また、わが国では丁度今年から、ISO 20252に基づく、市場調査、社会調査の質に関する製品(サービス)認証制度が立ち上がったところで、(財)日本適合性認定協会にも当研究会に参加を呼びかけました。このISO20252による調査の質保証の重要性をいち早く発信した吉澤正元JSQC会長を始めとして、当研究会には兼子毅氏、山田秀氏といった統計と質マネジメントのエキスパートも快く協力してくださり、主査としては、産官学のエキスパートがデータの質マネジメントについてフランクな議論をする場は世界的にも類例がなく、万全の態勢で研究会活動を

開始できたものと自負しています。

今後、当研究会では、①個々のデータの質、データから計算される「一次統計」あるいは「試験結果」の質、更には統計量などを意思決定のために加工した「二次統計」など情報プロダクトの質評価の方法、②情報プロダクト作成プロセスの質とそのマネジメントシステム、③情報プロダクトの設計品質の定義、設計品質確保のための方法論などを政府統計調査、マーケティング調査、医薬品臨床試験などの様々な分野で明らかにし、その共通点などを明らかにしたいと考えているところです。

一定の精度を有する個々の統計調査結果を数式的に組み合わせて作成される「二次統計」は、政策的意思決定に用いられる重要な指標なのです。しかし、この精度については殆ど議論されたことがないのです。この二次統計の設計・作成をどのように行えば、より安定的な品質を示すようになるかという研究課題は、個々の統計調査の結果を部品、二次統計やそれに基づく意思決定を製品と考えれば、モノづくりにおける設計技術と極めて類似しているように見えます。情報の価値が高まった現在こそ、情報の質マネジメントについて、JSQCが諸分野の実践の知を統合し、チャレンジすることについては是非会員のご理解とご支援を賜りたいと考えております。

● 私の提言 ● JSQCの今後の国際化

東京理科大学 鈴木 知道



昨年9月にANQ（アジア品質ネットワーク）の東京大会が行われ、多くの国内外の品質の専門家が参加した。それからもう1年が経つ。今年のANQ大会は10月にインドで行われる。JSQCからは35件の応募があり、ANQの中でも主催者以外では、最多の参加数を送り続けている。これらを含め、JSQCの国際化は十分であろうか。私見では、合格点は与えられるかもしれないが、まだまだ出来ることは沢山あると感じる。今後は、どのような方向に向かえばよいのであろうか。学会としての立場、そして会員の立場から考えてみる。

学会の立場から、現状の課題を検討すると、一つ目は国際学会への参加者にかたよりのあることが挙げられる。その数は圧倒的に学会の会員が多く、昨今の経済状況を考慮しても、少なすぎるといわざるを得ない。対策として、簡単な解決方法はないと思うが、何よりも参加してメリットがあるような国際学会を提供することが一番であろう。JSQCが一層ANQ内でのリーダーシップを発揮して、そのような大会を実現できるようにすべきであろう。

二つ目に挙げられるのは、ANQ以外のイベントへの参加がほとんどないことだ。世界的には大小様々な国際学会が開催されているが、ANQを除けばEOQやASQへの参加は散見されるものの、その他学会への参加はほとんど聞かない。対策としては、ANQ以

外の団体との連携を強くするとともに、一層の参加支援等が必要になるだろう。

会員の立場からは、どんな課題が挙げられるか考えてみる。一つ思いつくのは、国際化への取り組みが本当に自主的な参加になっているかという点である。同じような問題意識を持っている人達と接し、そこで様々な意見や考えを交換できることは、非常に有意義なはずだ。現実的には言語の問題もあって簡単ではないと思うが、だからこそ得られるものも大きいと思う。国際学会への参加は、その第一歩だと思う。参加して、勇気をもって一言声をかけてみてほしい。

国際学会への参加の観点から国際化について考えた。今後は一人でも多くの会員に積極的に国際的に活躍してほしい。そのためにも、学会としては、支援体制を作るとともに、国際的に活動できることがJSQCに参加する魅力の一つになるのが理想である。

第108回中部 支部講演会 レポート

『「実践的Qの確保」の 構築を通してものづくりの 原点回帰へ、そして飛躍へ』

2010年5月21日(金)第108回講演会（中部支部第51回）が刈谷市の「60周年記念会館シャインズ」にて標記のテーマで行われ130名の参加者が聴講しました。

■講演1『日本のグローバル展開における「ものづくり」NIPPON BRANDの確立にむけて』

日野自動車(株) 相談役 蛇川 忠暉 氏

変貌する世界市場の中で自信を失いつつある日本が、再び復権を果たす為の、グローバルな「ものづくり経営」について、また社長時代に実践したプロジェクトのお話を聞かせていただきました。ご自身の思いや、実体験からの



解りやすい説明だった為、自社で参考になるとの声が多くいただき、また社長自らが従来の概念を壊して新しいプロジェクトをリードしてきた体験に驚きの声がありました。

■講演2『トラブル未然防止のための知識の構造化』

(株)構造化知識研究所 代表取締役 田村 泰彦 氏

SSM（知識構造化モデル）を用いて失敗事例、一般的な技術ノウハウに含まれる知識を体系化し、既存の未然防止活動を強化、設計計画の質を向上させ、組織全体の未然防止力を高める方法の説明と、また知識の構造化による未然防止や知識伝承の実践例について紹介していただきました。丁寧な説明により、SSMの書籍では難解だった部分が直ぐに理解出来たと言う意見や、構造化・システム化についてトライしたい、と言う意見が多くありました。

全体としては日本復権の為の連結品質の大切さを学び、また、未然防止の仕組みの大切さを考える良い機会となった点で、聴講者から高い満足度を得ました。

深澤 一正 (株)コマツ

第343回 事業所見学会 ルポ

全日本空輸(株) ANA機体メンテナンスセンター

航空機と聞いた瞬間に童心に帰るのは不思議である。そんな子供心を抱きつつ、5月18日(火)にANA機体メンテナンスセンターを見学させていただいた。センターを見学しての印象を私の娘流に言わせていただくと「飛行機デカッ!」「ハンガー広っ!」である。大きな機体の周りに整備を行う足場が細かく、そして正確に組み立てられ、そこで多くの方達が整備を行っている。その光景はまるで小人の国にたどり着いたガリバーが体中を縄で縛られ、沢山の小人に囲まれているようにも見えた。

航空機整備にもいくつかの種類があり、1年～2年毎に行う整備では1機の機体整備に60人で10日をかけているそうである。Qualityを専門とする我々は、ともすると航空産業と聞いた途端に機内サービスの質や空港カウンターサービスの質を考えてしまいがちであるが、

航空機が安全に飛行できるのは確実な整備が行われているからであり、縁の下の力持ちである彼等の努力を無視することはできない。手作業による整備が多いことから、個々の技能を高めるための訓練の仕組み、QA Bulletinと呼ばれる技術文書の発行、さらには整備員のモチベーションを高めるための工夫などを聞かせていただいた。作業のちょっとしたミスが大きな事故へと発展しかねない業界であるからこそ、ヒューマンエラーを排除するために継続的な努力を行い、小さなミスも絶対に許さない姿勢はとても勉強になった。

14:00～17:00までの見学であったが、こんなにも早く時間が経過するとは思ってもよらなかった。やはり、ワクワク感の度合いが違っていたのであろう。ハンガーの見学では機外からの写真撮影が許可されたものの、あまりに航空機が大きいので、カメラのフレームに機体を全て収めることはできなかったが、航空機をエンジンの真後ろからアップで撮る経験はそうそうできないであろう。おわりに、見学を受け入れてくださったANA機体メンテナンスセンターの皆様にお礼を申し上げたい。

永井 一志 (玉川大学)

第350回中部 事業所見学会 ルポ

中部電力(株) 知多火力発電所

さる、平成22年6月16日(水)に第350回事業所見学会(中部支部88回)が、中部電力(株)知多火力発電所(愛知県知多市)にて開催された。「知多火力発電所における品質と環境への取り組み」のテーマの下、20名が参加した。

今回見学した知多火力発電所は1966年(昭和41年)に1号機の運転を開始し、現在、1978年(昭和53年)に運転を開始した6号機まで稼働している。

見学に先立ち会社概要とテーマの説明があった。同社では、現在、約7割を火力発電が占め、同発電所は、10ヶ所の火力発電所で3番目の発電規模を誇る。環境対応として、同発電所は、硫黄分などを含まないLNG(液化天然ガス)を主燃料としている。地球温暖化対策では、CO₂量削減のため、火力発電の熱効率の向上として、ガスタービンとその高温排気ガスを再利用した蒸気タービンによるコンバインドサイクル発電方式が

4つの発電機に採用されている。品質管理としては、安全かつ安定した電力供給のため、大規模な発電設備の保安管理は大変重要であり、法規制要求に基づく定期事業者検査や自主基準に基づく定期点検、日常点検などが実施され、ISO9001を基にした品質システムが構築され厳重に運営管理されている。

見学では、広い構内は良く整理整頓され、緑化など環境対策が実施されていた。高温蒸気を飽和水に戻す復水器から放流される海水の管理状況、取水口での異物除去装置、排煙を効果的に拡散する高さ200mを越える集合煙突、ボイラ、タービン、発電機やそれらを監視・制御するための中央制御室、変圧器の防音壁などを見学した。安定した電力の供給は社会インフラとして社会的責任は重大で、大規模な発電施設の安定稼働を保証するための設備管理の重要性を体感でき参加者には大変参考になったことと思う。

知多火力発電所の皆さまには、業務多忙の中、充実した見学内容と丁寧で分かりやすい説明に、この場を借りて厚くお礼を申し上げたい。

舟橋 俊三 (日本特殊陶業(株))

2010年5月の 入会者紹介

2010年5月26日の理事会において、下記の通り正会員24名、準会員6名の入会が承認されました。

.....
(正会員24名) ○坂口 寛司 (ローム)
○野村 雅彦 (レノボ・ジャパン)
○池田 弘幸 (日本原燃) ○元山 斉 (情報・システム研究機構 統計数理研究所) ○小菅 光明 (プロミ

ネンス) ○與田 哲也 ○佐藤 美恵 (早稲田大学) ○鈴木 俊彦 (富士ゼロックス) ○山口 浩次 (日機装工イコー) ○井内 滋 (井内) ○中野宏昭 (住友ゴム工業) ○仲川 久史 (日本科学技術連盟) ○清水 克仁 (本田技研工業) ○福島 正巳 (浦和ポリマー) ○宮下 昭 (協和精工) ○美添 泰人・塩沢 友規 (青山学院大学) ○長副 吉美 (富士電機システムズ) ○坂上 肇 (村田製作所) ○小原 教宏 (タムロン) ○西村和彦 (PFU) ○伊藤 泰信 (理研計

器) ○瓦谷 泰之 (東和薬品) ○鈴木 一洋 (JFEスチール)

.....
(準会員6名) ○池田 秀 (慶應義塾大学) ○末政 憲司・浦西 郁哉 (東京大学) ○荒瀬 航・大谷 兼太郎 (東京理科大学) ○岡 恵子 (武蔵野栄養専門学校)

.....
正会員：2527名
準会員：81名
賛助会員：159社185口
公共会員：24口

行事案内

●第93回研究発表会 (中部)

日時：2010年8月25日(水)
研究発表会 12:30~17:25
懇親会 17:40~19:40
会場：名古屋工業大学
統一テーマ：「実践的Qの確保」実現に効果的・効率的な取組み
参加費：会 員4,000円 (締切後4,500円)
非会員6,000円 (締切後6,500円)
準会員2,000円・一般学生3,000円
[懇親会]
会 員・非会員 3,000円
準会員・一般学生 2,000円
申込締切：8月18日(水)
定員になり次第締切
詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

●第94回研究発表会 (関西)

日時：2010年9月10日(金)
会場：大阪大学中之島センター
特別講演：「グローバル化と次世代

CAD/CAMに求められるもの」
荒井栄司氏 (大阪大学)
参加費：会 員3,000円 非会員4,000円
準会員1,500円・一般学生2,000円
※当日払い
詳細：ホームページをご覧ください。
<http://www-sys.ist.osaka-u.ac.jp/jsqc-kansai/index.htm>
申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

●第71回クオリティパブ (本部)

テーマ：トラブル未然防止のための知識の構造化
ゲスト：田村泰彦氏
(株)構造化知識研究所
日時：2010年9月22日(水)
18:00~20:30
会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室
定員：30名
参加費：会 員3,000円 非会員4,000円
準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)
詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第40回年次大会・成城大学 (本部) 発表募集中!

日時：2010年10月30日(土)
(1)申込期限
発表申込締切：8月25日(水)
予稿原稿締切：10月1日(金)必着
参加申込締切：10月20日(水)
(2)研究発表・事例発表の申込方法
6月送付の発表申込要領をご覧ください。
(3)参加申込
同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

●第106回講演会 (本部)

テーマ：ブランドマネジメント (仮)
ゲスト：加藤雄一郎氏(名古屋工業大学)
日時：2010年10月15日(金)
13:30~17:00
会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル2階講堂
参加費：会 員4,000円 (締切後4,500円)
非会員6,000円 (締切後6,500円)
準会員2,000円・一般学生3,000円
詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本部：TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org
中部支部：TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail: nagoya51@jsa.or.jp
関西支部：TEL 06-6341-4627
FAX 06-6341-4615
E-mail: kansai@jsqc.org

教員公募

明治大学理工学部機械情報工学科 教員公募

募集人員 1名
職位 准教授または専任講師
専門分野 機械と情報および電気電子融合技術(ハイブリッド技術)、生産システム、安全・品質・信頼性、介護・福祉機器、医療機器、クリーンエネルギー等の分野で先端的新領域系への展開が望めること。
担当科目 詳細については、本学ホームページを参照のこと。
<http://www.meiji.ac.jp/sst/recruit/index.html>
応募資格 ホームページをご覧ください。
着任時期 2011年4月1日
提出書類 ホームページをご覧ください。
選考方法 書類による一次審査。その合格者に対して面接質問(プレゼンテーションを含む)による二次審査を実施する。
応募締切 2010年9月30日(水)消印有効
書類提出先および問い合わせ先
明治大学 理工学部 機械情報工学科 科長 小山 紀
電話：044-934-7410, e-mail: oyama@isc.meiji.ac.jp